

## ジャカルタ国立大学の日本語学科における 2014-2015 の学年の大学生に対して日本語の謝罪の発話行為の使用分析

**Purwanti  
Febryan Hadinata  
Alumni Program studi Pendidikan Bahasa Jepang UNJ**

### Abstract

If someone says "sorry" that means the person is doing "speech act of apologize". Speech act of apologize are needed in everyday life in order to facilitate communication and harmony in life. Apologizing in Japanese are divided into some part, we called as strategy communication. They are the beginning of conversation, explaining the reason, apologizing and closing of conversation. We need use the strategy communication when apologizing to avoid the mistake and misunderstanding between speaker and partner. I hope that people who are studying Japanese can use strategy of speech act of apologize in Japanese properly.

**Keywords:** strategy communication, speech act of apologize, misunderstanding

### A. はじめに

人間はコミュニケーションにおいては、直接で相互に考え、アイデア、意図、感情、感情とすることができる情報を通信する。このように、すべての通信プロセスには「発話状況」の中で「発話事象」および「発話行為」と呼ばれているものである。謝罪の発話行為は、生活の中でのコミュニケーションと調和を促進するために、日常生活で必要とされる。日本語と日本社会の中での謝罪するのはインドネシア語や市民や地域社会その他の国における発話行為とは異なる。

本研究の目的は、次のとおりです。

- a. ジャカルタ国立大学の日本語学科における 2014-2015 の学生に 5 つの異なる状況によって謝罪の発話行為の使用の比較の割合を知ることである。

- b. ジャカルタ国立大学の日本語学科における 2014-2015 の学生に謝罪の発話行為の誤用の原因を知ることである。

## B. 発話行為

### 1. 日本語の謝罪発話行為

Muhammad Rohmadi (2004:145) によると、発話行為理論は初めて、1956 年にハーバード大学の教授であるオースティンによって導入された。サールは 1969 年に「Speech Acts : An Essay in the Philosophy of language」というタイトルの本を出版した後、その理論は着実に進化した。サールによるとすべての言語的なコミュニケーションには発話行為がある。

発話行為は、発話を生成する行為である。それで、だれかが「ごめん」と言う場合、その人は謝罪の発話行為をしている。発話行為はコミュニケーション能力に密接に関連している。青木直子(2001:22)によると、コミュニケーション能力には、文法能力、社会言語能力、ストラテジー能力、の三つの部門が含まれ、またコミュニケーション能力とは、文法能力、社会的な言語能力と戦略能力を含むものである。「日本語教育学を学ぶ人のために」(2001:22-23)で青木直子によると、「文法能力」というのは

「文法能力とは、言語を文法的に正しく理解し使用する言語能力のことですが、これは文法規則だけでなく、語彙、発音、文字表記も含まれます」。

次に、社会言語能力とは

「社会言語能力とは、場面に応じて言語を適切に使用し、理解するための能力です。文法的に正しい文が、いつも場面に適切な文であるとは限りません」。

そして、ストラテジー能力というのは

「ストラテジー能力の「ストラテジー」とは、もとは「作戦」とか「戦略」を意味することばですが、外国語教育では「方略」と訳されることが多いようです」。

青木はまた、コミュニケーション・ストラテジーの意味について説明する。

「コミュニケーション・ストラテジーとは、コミュニケーション能力が十分でないとき、および実際のコミュニケーションの場面の制約などによって、コミュニケーションがうまくいかなくなったとき、それをどのように修復するかという能力です」。

日本人の発話行為は、文法能力、言語的な能力、ストラテジの能力という 3 つの以上の説明した能力が必要である。次の文を使用して、スピーカーは謝罪し、責任を認めている。

すみません。借りていた本ですけれども、なくしてしまいました。

a)

b)

c)

ノート：

- a) 明示的な誤り表現。
- b) 伝えたいこととしての発話。「けれども」という文字は接続詞や導入として使用する。
- c) 謝罪のストラテジ。

「モンゴル人と日本人の謝罪行動」『日本教育指導者養成プログラム論集』というジャーナルで、コミュニケーション戦略はいくつかの部分に分かれている：

- 1) 話の開始

会話の開始は、問題を説明する始まりである。会話の開始は、呼びかけや問題を前触れをするなどできる。謝罪の印象の気持ちを表すために謝罪する時の挨拶は非常に必要である。

例：

a) 問題の前触れをする

先日、お借りした本の件なのですが...

b) 呼びかける

先生、～さん、など

2) 責任の承認

そのミスは自分自身の責任となり、自分自身を責めること。

例：実は、先日前借りした本を不注意で汚してしまいました。

3) 弁明

罪悪感の後、状態や原因を説明する。

例：コーヒーを飲んだら、犬がかみついてきて、こぼれちゃったんだよ ね。。

4) 謝罪

いずれかの他の人との状況で調整フレーズ謝罪を使って、罪悪感を表す。

例：申し訳ありません、すみません、ごめんなさい、など。

5) 恐縮

行われてきた過ちの責任を意味するものでは懸念を表示する。

例：大丈夫でしょうか、あのう、どうしよう。。。

6) 埋め合わせへの言及

問題の補償は解決策を求めたり、補償を提供したり、または、故障を修復することができないことを述べたりすることである。

例：

a) 補償を提供

- なんらかの形で謝罪しますので、処分は先生が決めてください。

- もちろん弁償させていただきますので。。。

b) 故障を修復することができないことを言う。

拭いてはみたのですが、おちませんでした。

7) 今後の約束

将来的に再びその間違いをしないことを約束する。

例：今後、このようなことがないように気をつけます。

8) 良好な関係への言及

この場合、通常はミスをした人は、相手が許したかどうかを確認する。会話の終わりに提供される支援の利点を説明し、感謝の気持ちを表す。

例：

- a) 感謝の気持ちを表示。

お借りした本、ありがとうございました。

- b) 支援の利点を説明する。

- せっかく厚意で貸していただいたのに。。。。

- 貸してもらったおかげでレポートは完成したんだけど。。。。

上記謝罪の戦略に加えて、ここでは日本語での誤り表現である。それは「すみません、すみませんでした、しつれい、しつれいしました、失敬、ごめん、申し訳ございませんでした、誠に申し訳ございませんでした、申し訳ありませんでした、どうも」。

## 2. インドネシア語の謝罪の発話行為

E. Aminudin Azizによると、「Realisasi pertuturan meminta maaf dan berterima kasih di kalangan penutur bahasa Indonesia: Sebuah Kajian Kesantunan Berbahasa」『インドネシアのスピーカーの間で謝罪と感謝の発話行為の実現：ポライトネスの研究』という彼の本の中ではインドネシアの人々によって行われた5つの謝罪のストラテジがあることを述べている。各戦略の使用は、単独で（排他）立っていないが、一つまたは多数の戦略の組み合わせとすることができる。戦略は次のとおりである。

- a. 発話の意思を示す、すなわち、会話の開始

例：Mohon maaf ya, gak sengaja.

（ごめんなさい。わざとじゃないよ）

## b. 責任を引き継ぐ

相手を「なだめる」の努力として、スピーカは相手の恨みがある可能性に向けて、スピーカの責任の気持ちを表す表現をしようとする。この条件は認められて、彼は謝罪する必要性を感じた。

例：Aduh, kok saya lalai membiarkan anak main vas bunga itu sampai pecah.

(ああ、どのように私は、子どもたちが遊んでその花瓶を壊すまで放っておいたのだろう)。

## c. 説明をする

スピーカーは、相手の「不快」の気持ちを感じさせて、何かが起こった理由を説明しようとする。

例：Bukannya aku nggak mau datang, tapi waktu itu (aku) lagi di luar kota.

(私は本当は行きたかったけど、その時、私は市外にいたんだもん)。

## d. 補償を提供

スピーカーは相手に「補償」をする気持ちがある。

例：Aduh Bu, maaf ya. Kita ke bengkel saja, dan nanti saya yang bayar biayanya.

(ああ、～さん、ごめんなさい。修理屋さんに行けたらどう？。あとで私が費用を支払う)。

## e. 繰り返さない約束、あるいは今後の約束

スピーカーは彼のミスが（かなり）致命的なことを感じたとき、彼は、それが将来的に再び起こらないことを約束する必要性を感じた。

例： Maaf Pak, saya nggak sengaja. Saya ambilkan tissue, ya? Lain kali saya akan lebih berhati-hati.

（お客様、申し訳ありません。わざとではありません。私はティッシュを取ります。次回私はもっと慎重になります）。

インドネシアで使用される謝罪の発言は、「ごめんなさい」であり、「本当にすみません」または「ほんとうにごめんなさい」となる、「ほんとうに」という文字を加えることもある。

### 3. 日本語とインドネシア語での謝罪の発話行為のストラテジーの相違点と類似点、および発話行為の礼儀正しさのレベルの決定

以上のことから、日本語とインドネシア語での謝罪の発話行為のストラテジーの相違点と類似点の表を作ることができる。

表 1  
日本語とインドネシア語での謝罪の発話行為のストラテジーの  
相違点と類似点

番号	ストラテジーのカテゴリー	日本語	インドネシア語
1.	会話の開始 (呼びかける, 問題の前触れをする)	✓	✓
2.	責任を承認 (自分自身を責める)	✓	✓
3.	弁明 (事情や理由を説明する)	✓	✓
4.	謝罪	✓	X



5.	恐縮	✓	X
6.	埋め合わせへの言及(解決の方法を聞く、補償を申し出る)	✓	✓
7.	今後の約束	✓	✓
8.	良好な関係への言及	✓	X

上記の表に基づいて、日本語とインドネシア語での謝罪の発話行為のストラテジの使用の相違点と類似点を見ることができる。インドネシア語での謝罪のストラテジで興味深いことはインドネシア語で「maaf」、すなわち「ごめんなさい」だけあるので、謝罪のストラテジの一部ではなくなることである。

謝罪の発話行為をする時に、正しく文法や言語的やストラテジを使用することができるように発話行為の礼儀正しさのレベルの決定を注意しなければならない。発話行為の礼儀正しさのレベルの決定は親しさ、年齢、社会的な関係、社会的な地位、性別、メンバーシップグループと状況である。

#### D. 先行研究

使用される関連の研究では、Tetrianita Sawitri (STBA LIA ジャカルタ)、Dwi Astuti Retno Lestari (ジャカルタ国立大学)、Rima Devi (アンダラス大学) と木谷直之 (The Japan Foundation、ジャカルタ) によって書かれている「インドネシア人と日本人の謝罪の発話行為の比較」と題する研究である。

使用するデータは、謝罪の発話行為に関連するデータ、直接例文と会話 (自然) などの収集、ロールプレイで使用される会話例、インタビュー、アンケートとの徴収の方法である。

日本語で謝罪表現のいくつかの異なる方法がある。申し訳ありません、すみません、ごめんなど相手によって使い方が違う。インドネシアでは、「申し訳ありません」または「sorry」、「謝罪」として明確に基づいて対話者に使用される発現の形態があることは数が少なく、「申し訳ありません」という言葉は最も広く使用されている。

それで、日本語のような謝罪表現に複数の選択肢が存在するという点で、インドネシアの日本語学習者に、どのような状況の正確な形状を使用し、コンテキストに対応するために必要とされている。

## E. 調査の実施方法

本研究では、適切に謝罪するためのストラテジを使用する実現を研究者が知るために、サンプルとしてジャカルタ国立大学の日本語学科における 2014-2015 の学年の大学生を調査した。日本のサンプルについては関連研究のデータを用いる。

### 1. 調査目的

日本語の謝罪の発話行為の誤りを知ることである。

### 2. 調査対象者と調査期間

調査対象者ジャカルタ国立大学の日本語学科における 2014-2015 の学生(22 人)である。本研究は、ジャカルタ国立大学において 2015 年 3 月～4 月に実施した。

### 3. 調査内容と方法

テストとアンケートを使用していた。

5 つの異なる状況で構成されている。状況は次のとおりである。

- a) 援助を提供することができなかった時の状況である。
- b) その人の前で物事を壊してしまったときの状況である。

- c) 借りた物をなくしてしまった時の状況である。
- d) 遅く借りた物を返すときの状況である。
- e) 会議の時間または予定を間違えてしまった時の状況である。

それに、アンケートはどうして学生が謝罪する時にミスをしたかという理由を調べるために使った。アンケートに書かれているものはモチベーションや学習習慣などの内部要因と教師や教え方などの外部要因である。

## F. 調査の結果と分析

### 1. 構造的な誤用についてのテストの調査の結果と分析

本研究はジャカルタ国立大学のキャンパス A の日本語学科において行った。本研究で用いたサンプルは集団のサンプルを用いて、サンプルとして集団全体を使用するという意味である。回答者になる総集団のサンプルは 22 人である。本研究は、2015 年 3 月 26 日から 2015 年 4 月 30 日まで行われた。

本研究で必要なデータを手に入れるために、筆者は、テストやアンケートを使用していた。本研究の研究された謝罪のストラテジーは会話の開始、理由を説明、謝罪、そして会話の終わりである。そのテストは 5 つの質問があり、5 つの状況および 2 つの異なる相手で構成されている。問題の状況は援助を提供することができなかった時の状況、その人の前で物事を壊してしまったときの状況、借りた物をなくしてしまった時の状況、遅く借りた物を返すときの状況、そして、会議の時間または予定を間違えてしまった時の状況である。問題に話の相手は、スピーカーより相手の立場が高い人（教師、他の人の姉妹、クラブの先生、先輩）とスピーカーとその位置が同じ（クラブの友人、アパートの友人）である。

表 2 構造的に誤り率

誤りのカテゴリ	構造につきの総誤りの数	構造につきの誤り率	誤りの解釈
a. 話の開始	481.86%	48.19%	けっこう
b. 理由の説明	418.20%	41.82%	結構低い
c. 謝罪	340.96%	34.10%	結構低い
d. 会話の終わり	900.00%	90.00%	非常に高い

表 2 から見ると、会話の終わりの構造は 90%の割合をもち、誤り率は「非常に高い」であり、話の開始は 48.19% 割合をもち、誤り率は「結構」であり、理由または状況の説明は 41.82%の割合を持ち、誤り率は「結構低い」であり、最後に誤り表現は 34.10%を持ち、誤り率は「結構低い」、そのことが分かった。

表3 学生に誤り表現を使用する表現率

問題 番号	済みません		すみ ません でした	失 礼 し ま す		失 敬 し ま す		ご め ん		申し 訳 あ り ま せ ん	ご め ん な さ い		誤 り 表 現 は な い	答 え な い		な ど	P					
	a	b		P	P	P	P	P	P		P	P		P	P							
1	a	6	27.27%	0	0%	0	0%	0	0%	4	18.18%	2	9.10%	4	18.18%	6	27.27%	0	0%			
	b	5	22.72%	1	4.55%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.55%	4	18.18%	1	4.55%	0	0%			
2	a	6	27.27%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.55%	1	4.55%	63.63%	0	0%	0	0%		
	b	4	63.63%	1	4.55%	0	0%	0	0%	3	13.64%	0	0%	0	0%	0	0%	4	18.18%	0	0%	
3	a	9	40.91%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	6	27.27%	5	22.73%	0	0%	2	9.09%	0	0%	
	b	9	40.91%	1	4.55%	0	0%	0	0%	0	0%	4	18.18%	2	9.09%	0	0%	5	22.72%	1	4.55%	
4	a	6	27.27%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	8	36.37%	0	0%	0	0%	4	18.18%	4	18.18%	
	b	4	18.18%	0	0%	0	0%	0	0%	4	18.18%	0	0%	6	27.27%	2	9.10%	5	22.72%	1	4.55%	
5	a	1	4.55%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	13.64%	0	0%	0	0%	1	4.55%	63.63%	4	18.18%
	b	3	13.64%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.55%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.55%	63.63%	4	18.18%

## 2. コミュニケーション能力についてのテストの調査の結果と分析

表4 コミュニケーション能力に基づいている割合と誤りの解釈

コミュニケーション能力に基づいている誤用のカテゴリ	誤りの割合	誤りの解釈
a. 文法能力	31.10%	結構低い
b. 社会的言語能力	31%	結構低い
c. ストラテジー能力	34%	結構低い

表4を見ると、謝罪の発話行為のコミュニケーション能力に基づく誤用の順番はストラテジー能力（34%）、文法能力（31.10%）、および社会言語能力（31%）である。すべてが「結構低い」と解釈された。そこで、学生がストラテジー能力がまだ不十分だといえる。

## 3. アンケートの調査の結果と分析

アンケートデータの結果に基づいて誤りの要因は次のようである。

- 1) 日本語で謝り表現についての知識がまだ理解していないこと。
- 2) 日本文化とインドネシア文化は違うこと。
- 3) ほとんど家で次の授業を準備していないこと。
- 4) ほとんど家で授業を復習しないこと。
- 5) 教室で教科書だけに頼ること。

6) 現在の授業を理解するのに困難を持っている時に専門家の講

師を依頼しない傾向があること。

内部要因の研究に含まれる前述の第 4 のポイント、それは学習に対する態度、学ぶ意欲と学習の習慣である。外部要因が謝罪発話行為に関連した質問に答えるの主な原因は教師やメディアや学習方法ではない。

### G. まとめ

ジャカルタ国立大学の日本語学科における 2014-2015 の大学生の謝罪の発話行為の分析についての調査の結論は以下に表す。

- 1) 90%の非常に高い誤りは会話の終わりである。
- 2) 構造的に「話の開始、状況の説明、謝罪、会話の終わり」のような発話行為の会話を作る学習者も多くの誤りを書いて、もっとも高い誤りからならべれば、会話の終わり(90%)、話の開始(48.19%)、状況の説明(41.82%) および謝罪(34.10%)である。
- 3) コミュニケーション能力について評価すれば、最も高い誤用から並べれば、ストラテジー能力(34%)、文法能力(31.10%)、社会言語的能力(31%)である。それは学生が日本語の謝罪のストラテジーを十分に理解できないといえる。
- 4) 誤りの原因は、謝り表現をまだ理解していないこと、日本文化とインドネシアのが違い、家で授業をよく準備していないこと、家で授業を復習しないこと、勉強に問題があるときに教師にそうだんしないことである。

### H. 参考文献

- 相原茂. 2007. 『感謝と謝罪』. 日本：講談社
- Aziz E.Aminudin. 2006. *Realisasi Pertuturan Meminta Maaf dan Berterima Kasih di Kalangan Penutur Bahasa Indonesia: Sebuah Kajian Kesantunan Berbahasa*. Bandung: Universitas Pendidikan Indonesia
- Edizal. 2010. *Tutur Kata Manusia Jepang*. Padang: Kayupasak
- Filia.1999.*Tindak Tutur Meminta Maaf dalam Bahasa Jepang dan Indonesia – dalam NIKKEN Jurnal Penelitian Kejepangan Vol.7 No.1*. Universitas Indonesia: Universitas Indonesia Press
- ゴンボ・オユーンビレグ (2004) 「モンゴル人と日本人の謝罪行動」  
『日本語教育指導者養成プログラム論集』第 2 号 75-99
- 池田理恵子 (1993) 「謝罪の対照研究－日米対照研究－－face という視点からの一考察－」『日本語学』Vol.12, No.12 明治書院 13-21
- 宮崎静香. 1994. 『二代目の日本語辞典』. 東京: 研究者
- 水谷修、水谷信子.1991.『*Communication Cues 1*』.東京: The Japanese Times, Ltd
- 水谷修、水谷信子.1994.『*Communication Cues 3*』.東京: The Japanese Times, Ltd
- 水谷修、水谷信子.1990.『*How To be Polite in Japanese*』. 東京: The Japanese Times, Ltd
- Moeliono, A.M. 1988. *Sikap Bahasa Yang Bertalian Dengan Usaha Pengembangan Dan Pembinaan Bahasa*. Makalah dalam kongres bahasa V. Jakarta
- 直子青木. 2001. 『日本語教育学を学ぶ人のために』. 京都: 世界史商社